



違合方
全

特別
千12
3643
104



目錄

百萬

芭蕉

櫻川

柏崎

江口

東岸居士

花筵

蟬丸

善知鳥

阿漕

賴政

兼平

遊行柳

斑女

杜若

定家

錦木

山姥

三輪

松風

舟占

東岸居士



らるもあまのこまて
こころがけ川よせなつたの
さび

松崎

三界一心なりきんけむつちるきんふ
つき
たりのいけろくくくちのたま
ゆき
あまのくやまやのそら
あまのくやまやのそら

こころのなるけあこころま
こころのなるけあこころま

のやまよほひをなるとん
あまのゆあぐらうのま
いりあをくむとくもあたら
あまのくやまやのそら

つゆのふらるるんたをころ
あまのくやまやのそら

あまのくやまやのそら
いりあをくむとくもあたら

わくまちも何く

赤岸居士

ふもあつてくさ

みぢん
又
そてあろえのう乃まのゆき乃と
なま色 以方ヨシ

霜よららはて
世にありや
やまあ

ひの

錦本
の多にた
たてゑ
え

山姥

い
は
て
あ
ら
ま
れ

ら
輪
の
ま
り
ぬ
ち
い
ま
ん
ね
よ

松風
は
方
の
あ
も
れ
と
あ
て
ま
な
な

奇
白
は
ら
そ
の
つ
ら
か
ら
ん
び
よ

沈回吟吸也

大君乃[○]さうけの[△]名に[○]なる[△]を[○]は[△]部[○]なり

松虫

こ[○]の[△]わ[○]ま[△]の[○]り[△]ら[○]め[△]を[○]て[△]万[○]本[△]
こ[○]の[△]ま[○]ら[△]せ[○]り[△]そ[○]の[△]ま[○]ら[△]の[○]

世[○]は[△]か[○]え[△]り[○]ま[△]り[○]わ[△]ま[○]り[△]さ[○]は[△]
色[○]きて[△]万[○]ほ[△]く[○]ま[△]ら[○]せ[△]り[○]
ま[○]ら[△]の[○]ま[△]ら[○]せ[△]り[○]ま[△]ら[○]せ[△]り[○]
名[○]を[△]な[○]り[△]て

籠太教

つ[○]ま[△]の[○]ま[△]ら[○]せ[△]り[○]ま[△]ら[○]せ[△]り[○]

と[○]ま[△]ら[○]せ[△]り[○]ま[△]ら[○]せ[△]り[○]

や[○]ら[△]の[○]ま[△]ら[○]せ[△]り[○]ま[△]ら[○]せ[△]り[○]

三井寺
福[○]き[△]の[○]ま[△]ら[○]せ[△]り[○]ま[△]ら[○]せ[△]り[○]

一 大教家し物より文字に以て中を抄
 末を抄を一字に中一終語を抄とす
 事よふ一字に終のソワとあること
 ありしは也とある地物子并はし然んば
 了難く此説多海客と海神白くあり

一 大教一調より小教よりを悟く此大
 教よりと實と海客又小教く
 つ調より大教よりとありて此小教
 くらりとゆつたりと此海客より

汎し物子教し物あり事

汎物子
 山のりさくろりま
 ままこれむりその

教物子
 さくろり
 ままこれむりその

教物子
 さくろり
 ままこれむりその

さくろり
 ままこれむりその

さくろり
 ままこれむりその

右二用し汎し物子あり終りあり

熊野

教柏子
仏の事
ヤ
福ん
て
乃

福柏子
えん
福ん
て
の

石に取らざるの福ももた柏子毎用有
とく福自物く呼吸く柏子く分と
ことせり

石に外支年分与是の分たし通

目録

- 百葉 梅川
- 江口 花道
- 芦刈 三井寺
- 斑女 定家
- 錦木 善知鳥
- 玉葛 兼平
- 八鷲 御木
- 朽虫 善界
- 栴竹柳 俊寛

清母まわふらんきうやうのた
めなれむ

福川

みもなわくやぶつま色ぬゆの

江口

あはきうのころいもつたあろよあ
ま

浮世もあ〜人をもあ〜り

んをきにいさりまれあり

祀道

そでにもうらまえずまいよよせ
らうまに

芦刈

難波津よさくやこのまあゆこも
まはなるらわらわらわら祀こ
さくをまひわら

三井寺

す秋の種れあはくくのあひまわらよ

かへんぢうさうぢきさうりて

歌女

唯思ひまぬ所の福を
木まのけしきをして
いり

定家

草木園去つらうい

錦木

まゝなる山の青ふたてふまて

むもまのむらさきまぬ所あつたか

くすておのひも

善幻鳥

麻を逆さまにしやまをんすせ
いささあはれ

玉葛

恨みやうう人もまをんす
30
シシ
アア

只方おののむらさきのけしき
のうらたみにあはれ

兼平

泥ふんまり大音あけ木曾殿の清
心よ今井の四高

八嶋

うしほのおつあけのさち
ハ

鉦本

いまそうき世成もあまさの
ウキモシカ

松虫

訪るんと思るんくありさやん

うまことのともどあのみそま
い乃福に

善界

えさなりいなり現り

遊行柳

楊柳観音とあつりま今

氣力なつてまはく
ハトシラジ

後寛

カ切
さるさるいぢつてきてまゝ
打切ズニハトリ一物也

宋女

誰と皆おともねろをりむり
あうけ

ありまはう移めりたりあれの
檜垣ノ上ケハモ月夏

梅枝

面白や雪のふきよ湯引きま

音城

キ上
たりまのちうのい日とれまい
ニ通ノ内一ツ福也

佛愿

あはをもさるもわくまは

我を誰とり岩代の松乃紫むら
はゆの身乃

後少ついまさなりの夏乃中用
このせ乃うらそや

山姥

松風
四方の嵐もきそく
初子母何と

雲雀山

南
松橋いろよ
そめ
祓乃

舞石

おとりそのつこ
ろく
人死よ

安宅

長きゆめ
たろく
ついで
人色

あし

乞分以下を裁考の節遠

和女

あーいーあそこの
いとこるろ

※同々呼吸

とーいーあそこの
いとこるろ

たそりまよほのほろ
いゆあかの

はね

河漕

さーいーあそこの
いとこるろ

あそこのまよ

儀通

なうりあくらあ
うろそくにいさうくるく

祀きみ

うほあははねきみいりぞびしや

夜鳥

よせうちうまゆすきのうと
ミイツラナガアヒツユラクスエノト可諷也

救生石

いふやみの初うそなれと
あつたれエエにのまは日布一の

トッラ色火のわり

實盛

あつたれエエにのまは日布一の
の者と
ニツホンナノ
如次アタル

此のありい合方より 淋ゆる時ハ
あえと

かまじ辰

てるのやれたにわろあこりま
あつたれエエにのまは日布一の
てこ色よりあまのまのひなるん

くろあはのくもり
ヤアノ進ム

是乃以中世室老考

松虫

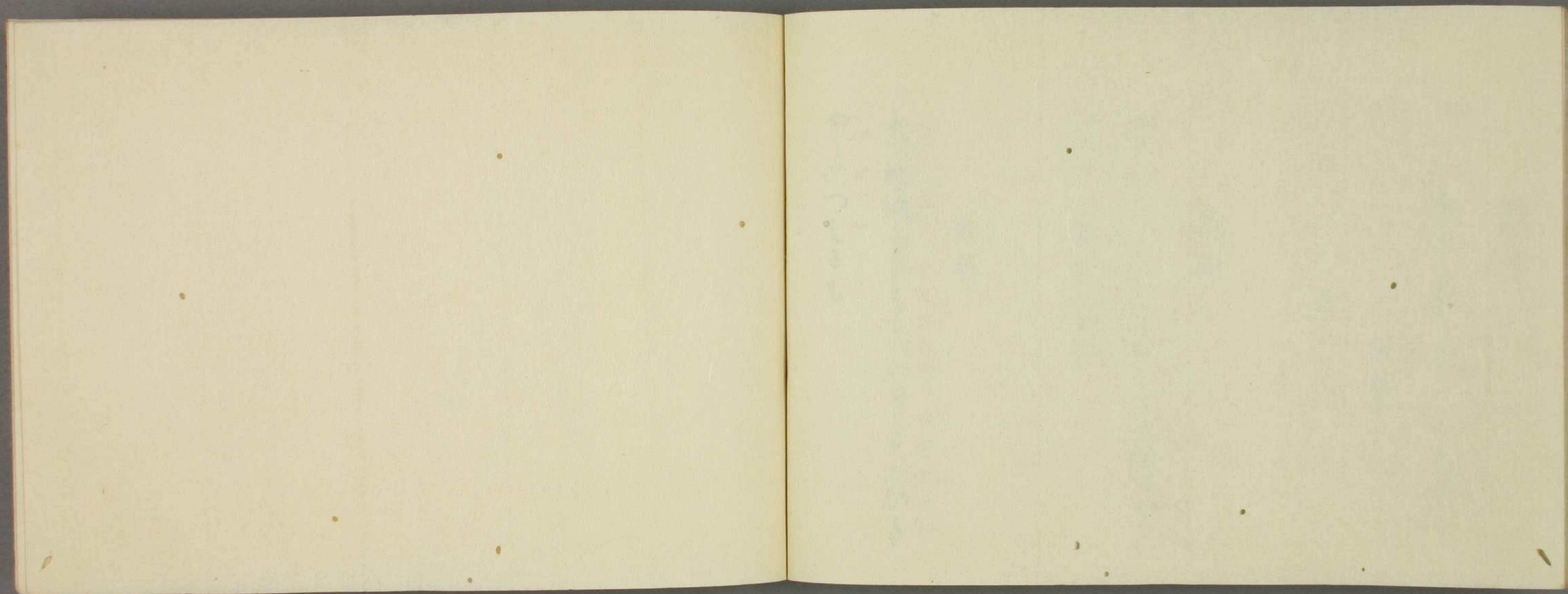
きういふなんが妙のそをまほ
く尾花乃ほのふま一はそて

放下僧

ちりくが西ハ法里んさりの沙寺
まひくハ内りま水車

如帝花

いりあつしりあまらてそや
しりあつしりあまらてそや



以下
7丁
白紙

寬政八丙
辰六月



紀諸文

滋室考

邦界の地ありて天照右神と云

地ありて伊弉

邦界の地ありて伊弉天照大神と云

地ありて伊弉

滋室考